

THE YMCA

日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2017年3月1日発行 (毎月1日発行)
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円 (外税) (送料62円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
URL: <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/島田 茂 編集人/山根 一般
印刷/あかつき印刷株式会社

災害支援と YMCA



日本YMCA同盟総主事
島田 茂

阪神・淡路大震災が発生してから22年になります。私は、発災1週間後に横浜YMCAの同僚と一緒に神戸YMCAの仲間を見舞い、その後、被害の大きかった長田町に向かいました。長田町にある西神戸YMCAは学童保育など、地域の貧しい子どもたちに寄り添った活動を行っていました。三宮から寸断する電車に乗継ぎ長田町に着いた時には、火災が集中した商店街の焦げたアーケードが、被害の大きさと悲惨さを物語っていました。西神戸YMCAは大丈夫なのかと心配しながら、倒壊している家々の屋根の上を歩き、確かこの辺だと思った時、目の前にYMCAの道標がありました。唯一道のようになっていた所を、瓦礫を縫うように進んだその奥に、YMCAの建物が見えました。なんとそこからゼッケンを付けたYMCAのボランティアと子どもたちが歓声を上げながらYMCAの道標を目標けて競走していました。子どもたちはレクリエーションゲームをしていたのです。その姿は、瓦礫となった家々や焼けてしまった家屋の間を、言葉もなくやっとの思いで通り抜けて慰問に来た私たちを元気づけてくれました。まさに、絶望の中で共に希望を見いだすYMCAのボランティアの力を感じた瞬間でした。ボランティアの中には家族を失ったにもかかわらず、ここに駆け付けた人もいたということの後で聞きました。

2011年3月には東日本大震災が発生し、全国のYMCAが5年間支援活動を継続し、今後の支援内容を検討していた矢先、2016年4月14日に熊本で大き

な地震が発生しました。

熊本YMCAのスタッフの多くは、自らも被災し、度重なる地震の中を車などで避難しつつ、全国から駆け付けたYMCAスタッフ・ボランティアと共に、町から管理者として委託されている益城町総合運動公園と御船町スポーツセンターの2つの避難所の運営、熊本市内のYMCA各センターでの地域支援、そして阿蘇市にある阿蘇YMCAキャンプ場を拠点とした災害救援支援活動を行いました。昨年10月末に避難所がその役割を終えた後、現在は仮設住宅の支援などを行っています。

YMCAは、関東大震災、伊勢湾台風、阪神淡路大震災、スマトラ沖地震、四川大地震、ハイチ地震、東日本大震災、そして熊本地震など、多くの国内外の災害で救援・復興支援活動を行ってきました。YMCAは、なぜこのように災害支援に関わるのでしょうか。

日本YMCA基本原則には、冒頭に「イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ」という言葉があります。YMCAには、国・民族・宗教などの違いを超えて、「行って、あなたも同じようにしなさい」(新約聖書ルカによる福音書10章17節)と語られたイエスの生き方にならって歩もうと努めてきた歴史があります。先人たちがそうであったように、YMCAは東北で、熊本で、被災された方々と希望を見いだしながら、これからも続く復興への道を共に歩んでまいりたいと思います。

REPORT

相手と向き合って心を合わせていくこと。(仏語「愛」と「共感」の間の言葉)

苦しんでいる人を、放つてはおけない

イエズス会司祭
片柳 弘史

昨年9月、バチカンでマザー・テレサが聖人の列に挙げられました。厳しい暑さに耐えながらの式典でしたが、教皇フランシスコによって列聖が宣言され、世界中から集まった12万人の人びとの心が喜びの中で一つになったあの時の感動は、今でもはっきり胸に残っています。

教皇フランシスコは説教で、「この慈しみの働き手が、私たちにとっての唯一の行動規範は無償の愛だと理解させてくれますように」とおっしゃいました。この言葉こそ、マザーの生涯を的確に要約していると私は感じました。

「無償の愛」が行動規範であるとはどういうことでしょうか。それは、「誰かが苦しんでいるなら、放つておくことができない」ということです。苦しんでいる「神の子」を、決して見捨てることができない。自分のことは脇において、とにかくその人を助けずにはられない。それこそ、「無償の愛」を生きるということなのです。

マザーの生涯は、徹頭徹尾この規範に貫かれたものでした。18歳の時、マザーは故郷を離れ、修道女としてインドへ向かいました。

それは、インドで苦しんでいる貧しい人たちの話を聞き、放つておけなかったからです。38歳の時、マザーは修道院を離れ、スラム街に入りました。それは、貧しい人びとの中で苦しんでいるイエスと出会い、放つておくことができなかったからです。42歳の時、マザーは「死を待つ人の家」を開設しました。それは、道端で死にかけている人と出会い、放つておくことができなかったからです。マザーの活動は、世界中にどんどん広がっていきました。それは、世界中に苦しんでいる人たちがいることを知り、放つておくことができなかったからです。

苦しんでいる人がいたら、放つておくことはできない「無償の愛」。それは、99匹の羊を置いて、迷子になり、暗闇の中で苦しんでいる1匹の子羊を探しに出掛けた羊飼いの愛。自分の旅を中断して、道端に倒れている人を助けたサマリア人の愛。そして、罪の中で苦しむ人間たちのために、自分の命を捧げたキリストの愛に他なりません。マザーは、聖書が語る神の愛を、現代に生きた人だったので、私たちも、この愛をしっかりと引き継ぎたいと思います。

Vol.21

We All Belong to YMCA

YMCAの活動に参画するユースからの発信

●広島YMCA 「熊本ボランティアワークキャンプ2016」

●内容：8月21～25日、熊本地震による被災地復興支援のために実施。一般参加のユース4人と広島YMCAの専門学生9人、引率スタッフ3人の計16人が参加し、瓦礫撤去（倒壊家屋の解体や仕分け）、避難所や子どもキャンプの支援などを行った。



右から2人目がフェエさん

行く前は、新聞やテレビを通して被災地をただ想像することしかできませんでした。熊本へ行き、めっちゃくちゃになった家など現状を目の当たりにして、がくぜんとしました。

印象に残っているのは、瓦礫を撤去した家のおばあさんが涙を流してくれたこと、そして、益城町の避難所で被災者の皆さんに会ったことです。不安でいっぱい顔を見て、心から「気の毒だ、助けて」という気持ちが生まれました。本当に一日でも早く熊本の復興がかなうように、これからも全国の人がボランティアとして熊本に集まることを願っています。

私はベトナムからの留学生なので、ボランティア活動をしている間、日本語に困る場面もありましたが、一緒に参加したメンバーがいつも優しく教えてくれました。国籍の違いにかかわらず、気持ちを合わせて支援活動を行えたことは、大切な思い出です。

福山に着て来てから、あの5日間何ができたのだろうかと考えています。今後も何かをし続けたいとは思いません。まずは、私の周りの人に熊本でのこと、勉強になったことを話そうと思っています。

今回のボランティア活動は、私にとって「してあげる」ものではなく、「させていただく」ものでした。たくさん心を熊本からいただいたことに、本当に感謝しています。

ドーティーフェエ（フェエさん）
（福山YMCA国際ビジネス専門学校 日本語科2年）

熊本地震募金にご協力ください

12月末現在、国内外から「146,095,048円」の募金がYMCAに寄せられました。これからも被災された皆さまに寄り添い、復興支援活動を継続していくため、2017年4月までに総額2億円を目標としています。

引き続き熊本地震募金にご協力をお願いします。
*日本YMCA国際ホームページのサイト内でも受け付けています：
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/index/>

①「熊本地震・YMCA救援・復興募金」

地域コミュニティ復興を前提とした募金全般（仮設団地の支援、阿蘇地域の農業復興支援、子どもの心のケアプログラム・キャンプ実施など）

■三菱東京UFJ銀行 四谷支店 普通 0111494
公益財団法人日本YMCA同盟
青少年救済復興募金口座

②「熊本地震・被災YMCA支援募金」

被災YMCAの再建・運営支援を目的とした募金全般

■三菱東京UFJ銀行 四谷支店 普通 0111481
公益財団法人日本YMCA同盟
被災YMCA支援募金口座

■郵便振替口座 00130-4-696497

日本YMCA同盟災害支援募金口座

*通信欄に「①募金」または「②募金」とお書きください



高永千晶さん
賛育会病院スタッフ
医療ソーシャルワーカーとして
YMCAと支援活動に従事

自分たちのちからでお祭りを

秋寄 昨年の夏は、毎年恒例だった益城町の夏祭りが中止になりました。それならと、私たちは8月20日に避難所でお祭りをすることにしました。避難者自身の手でポスターを描くところから始めて、みんなで一緒にお祭りをつくっていきまいた。出店では、売るもの買うもの被災者、物資の支援を受けるのとは違い、以前のように、欲しい物を選んで買ってもらおうとしたんです。この時期は、仮設でお盆を過ごすために人がほとんど出て行って、避難所は寂しくなっていました。お祭りに参加する人も「また、みんなと会えたらいいな」と大勢来てくださり、参加者は1000人を超えました。お祭りに「みんなでも何かをして、一緒に楽しもう」という空気があふれていました。

支援から交流へ

秋田 クリスマスには、「姫路発中高校生」のための東日本災害ボランティアというNPOから、中高生が来ていましたね。秋寄 40人の中高生が、踊ったり歌ったりして仮設の皆さんを勇気づけてくれました。22年前には生まれていなかったけれど、多くの人たちに支えられて

秋田 仮設の支援と同時に、地域で定期的な活動をするのもできます。そうすれば、ボランティアも継続的に集まって交流が続く。福岡からの避難者を対象にした方が開かれていたのも記憶に新しいところです。仮設住宅での滞在期間は基本的に2年間です。そうした意味で、今から地元をさまざまな団体とつながりながら活動するのも大事だと思います。

秋田 「仮設は、まちづくりの練習」とおっしゃっていた方もいます。復興住宅に移れない方や、家の再建が難しい方もいらっしゃる中で、私たちは寄り添い方も考える必要があります。「まち」の中で、誰もが「気になる人」づくりをしてはどうでしょう。まず声を掛けて、世を超えた信頼づくりを始めたい。それは、自分をみんなに知ってもらうためでもあるのです。



午前10時、木山仮設団地の集会所を利用した「YMCAよかきやまハウス」に団地の皆さんが続々と集まり、マフラーを編み始めました。団地の70歳以上で一人暮らしの30人の方々に贈るクリスマスプレゼントです。



4月14日から避難所となった総合体育館。居住スペースは、むき出しになった天井を布で覆い、段ボールベッドを設置してカーテンで仕切りました。人の心と手が集まった避難所は、この日、閉所を迎えました。



「地域の人たちを元気づけたい」「楽しい時間を過ごしてほしい」……人びとの思いと願いが重なって、夏祭りが実現しました。当日は綿あめやヨーヨー釣りなどの出店が並び、地域の皆さんとボランティアと一緒に歌ったり踊ったり。子どもたちや家族連れなどでにぎわいました。



期末試験や受験を控えた中高校生のために、「プレイルーム」に併設されていた「学習コーナー」を、体育館内の空きスペースに移転しました。時間もこれまでの「21時半まで」から「23時まで」に延長。初日から早速、勉強する姿が見られました。

6月10日 「学習コーナー」が誕生！

最大震度7を2回観測した熊本地震発生から、間もなく1年がたとうとしています。熊本YMCAは自ら被災しながらも、全国のYMCA・ワイズメンズクラブや諸団体、行政と連携しながらさまざまな支援活動を行ってききました。中でも、熊本YMCAが指定管理者として運営する「益城町総合運動公園・体育館」は県内最大規模の避難所として約1500人の方々を受け入れてきましたが、10月末にはその役割を終えました。現在、益城町では、熊本YMCAが木山仮設団地（220戸）の住民を見守り支える「地域支援合いセンター」事業を受託。「かたち」を変えながら支援を続けています。今回は支援に関わった3人の方々が、避難所のことや益城町復興への思いを語り合いました。

かたちを変えながら、前へ

熊本地震・避難所での支援から 今、復興への思い



秋寄光輝さん
熊本YMCAスタッフ
YMCA益城ボランティアセンター長
（～2016年9月）

小さな声にも耳を傾ける

秋寄 私はまず4月26日から1週間、益城に行きました。まだ事務所内は混乱していて、避難所全体が避難して来た人と支援物資であふれていました。その中で物資の仕分け、救護、食べ物配給……そういった役割分担が始まっています。

秋寄 そうですね。しばらくは緊急対応に追われていたが、だんだん避難者の方々と話をする機会も増えていきました。

ある時、受験生のお母さんから、息子が布団をかぶって、懐中電灯で勉強しているという話を聞きました。そこで、熊本YMCAの専門学生にあつた机と椅子を選び込み、電球と配線を買ってきて、翌日には「学習コーナー」を作りました。彼は熊本大学に見事合格、今は「耐震を勉強したい」と言っています。勉強できる環境を作るといっては、大事なことだと思えました。

秋寄 私は東日本大震災の時、日本医療社会福祉協会から1年間、石巻に派遣されましたがやはり、子どもたちには勉強する場所がありませんでした。でも、勉強が選ばれるということは、しょうがないでは済まされないことだと感じました。

秋寄 そうです。しょうがないじゃ、済まされません。小さな声に耳を傾けて、一緒に考え、できるだけ以前に近い環境をつくる。それを進めようか。避難者が決めてくださるべきだと思います。

秋寄 命や家を失うという、これまでの自分の生き方を否定されるような状況の中で、人が人として生きていくために、私たちに何が出来るのかという……「しょうがないから我慢して」ではなくて、日常を取り戻すために「じゃあ、どうしたらいいだろう」という発想でスタッフの皆さんは動かれましたね。

秋田 避難所で、居住スペース改善のためのアンケートも取りましたよね。

秋寄 はい。総合体育館のアリーナに、震災前と同じ集落を再現しようというアイデアを取ったこともありました。区割りも調べて、各区何世帯何人かを調べて、その通りのグループに分けようと思いました。

仮設住宅への移行を見据えて、それ

秋寄 私は、総合体育館のアリーナに、震災前と同じ集落を再現しようというアイデアを取ったこともありました。区割りも調べて、各区何世帯何人かを調べて、その通りのグループに分けようと思いました。

秋寄 私は、総合体育館のアリーナに、震災前と同じ集落を再現しようというアイデアを取ったこともありました。区割りも調べて、各区何世帯何人かを調べて、その通りのグループに分けようと思いました。

だから声を掛ける

秋寄 私は、「どうしたんですか？」「何か困ってますか？」と、ふらふらと声を掛けることを心掛けた。難しく思えても、まず声を掛けないと、その人の状況は分かりません。こうして顔を合わせることで、関係をつくることにつながるんだと思います。

秋寄 富永さんや賛育会の皆さんは「何でもやります」と、朝食の介助に始まって、シャワー室では受付や夜の掃除までしてくれましたね。

秋寄 私たちは受付にいても、「避難者の皆さんは話をすることで元気になるから、積極的に声を掛けよう」ということを意識していました。

秋寄 私もあいつつ回りしました。「どうですか？ 元気ですか？ 何かあったら言ってくださいね」と。そうか、顔を覚えてもらえると、大変なことを大変だと、言ってくれるようになる。そして何か頼んだり頼まれたりするようになって、つながりができるんです。

8月、9月には仮設に移動する人が出るようになり、抽選に外れた人は避難所に残るしかありません。「また外れた」という人に、どう接するか悩みました。仮設に入るのがかなわないと、不安やいらだちも募ります……。

秋田 10月の閉鎖の時は、すべての避難者が退所することができました。中には事情を抱えている方もいらっしやいましたが、行政の担当者がしっかりと向き合い受け止めてくださったことは、本当に大きかったです。やはり、個人の細部にわたる情報は、行政しか持ち得ませんから。最後の一人まで、「その人が必要か」という状況で、どのような支援が必要か」ということを共有してくださったおかげで、良い連携ができたと思います。

秋寄 避難所が終わると決まった時には、家の修繕ができていない方もいて、それぞれ、これから先の不安を覚えていらっしやいました。

私たちが支援者にはどうしようもないことですが、話していたことで、少しでも不安をやわらげてもらえたらと願うばかりです。当初は、一時的な避難だと思っていたものが、長期的な避難になっていく……一見、元気そうに見える人にも悩みはあります。だからこそ、傾聴することが大事だったんです。

秋寄 仮設を出て復興住宅に行くにしても、それは、また新しい所、新しい環境へ行くということ。もし次の災害が起こっても、隣近所を知っていないと困るということも、私たちは学びました。若い世代も町内会に巻き込んで、普段からそこで一緒に災害のことを話せるようになってきたら……。「まち」というコミュニティにつながる必要性を知ってほしいのです。

12月8日 「YMCAよかきやまハウス」で、こんな集まり

10月31日 閉所の日を迎えて

8月20日 避難所で「夏祭り」を開催！

2016年度日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は23YMCAから573人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。

1994年から認証制度開始。
これまでの認証者総数は15,935人



YMCA ボランティアの定義

YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に、①自らの自由な意志によって(自発性)、②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)、③金銭や名誉などの報いを目的とせず(無償性)、④人びとや社会のために働き(利他性、社会性)、⑤人びとと痛みや喜びを分かち合い(相互性)、⑥継続的に(継続性)、よろこんで自らの時間や努力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

- 北海道YMCA**
 - 新山 由樹
 - 阿久津 昇汰
 - 鮎ヶ瀬 某都
 - 北見 綾乃
 - 大塚 真実
 - 千歳YMCA
 - 栗澤 陽太
 - 植山 宏之
 - 関口 優子
 - 菅沼 咲季
 - 相良 拓登
 - 川口 千尋
 - さいたまYMCA
 - 太田 篤仁
 - 近山 哲美
 - 藤山 千穂
 - 佐藤 友花
 - 三森 秋穂
 - 立岡 壮太
 - 小川 桃佳
 - 木下 蓮七
 - 相田 杏菜
 - 山岡 大地
 - 坂本 麗
 - 高田 梨月
 - 岩崎 春佳
 - 吉岡 奈都子
 - 須藤 花梨
 - 島田 美里
 - 長谷川 友美
 - 東京YMCA
 - 鳥塚 舞華
 - 東山 美穂
 - 久保田 美穂
 - 多田 由香里
 - 中村 有紀
 - 阿部 雅彦
 - 風間 美紀
 - 廣川 遥子
 - 飯塚 幸平
 - 阿久津 理歩
 - 藤原 みなみ
 - 小松 友広
 - 若林 夏奈
 - 芳賀 大輝
 - 吉田 朱里
 - 藤澤 咲恵
- 山形YMCA**
 - 山形 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 福島YMCA**
 - 市川 茉由華
 - 梁川 守民子
- 茨城YMCA**
 - 久野 給美
 - 鈴木 給里香
 - 荒井 珠美
 - 阿部 雅彦
 - 上野 香穂
 - 内田 祥太
 - 水木 大悟
 - 阿久津 理歩
 - 藤原 みなみ
 - 菅原 司
 - 寺前 祐希
 - 藤岡 南
 - 高草 皓太
 - 岩崎 愛
- 栃木YMCA**
 - 面川 桃香
 - 田口 圭悟
 - 木戸 隆斗
 - 林 夏絵
 - 山田 真由
 - 兼田 夏実
 - 藤井 竜大
 - 長谷井 況平
 - 杉浦 弘平
 - 山岸 朱里
 - 牧野 花代
 - 柳 綾
 - 小方 可奈江
 - 田中 あづさ
 - 福岡 隆宏
 - 近野 隼一
 - 稲森 令奈
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 群馬YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 埼玉県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 千葉県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 東京都YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 神奈川県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 静岡県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 愛知県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 岐阜県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 富山県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 石川県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 福井県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 山梨県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 長野県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 新潟県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 北陸県YMCA**
 - 山崎 紗英
 - 山田 致也
 - 小澤 翔馬
 - 瀧澤 尚大
 - 木村 勇貴
 - 古川 由夏
 - 大城 樹
 - 田中 守
 - 佐藤 友子
 - 小泉 智子
 - 古明地 祥代
 - 甲斐 光彦
- 北九州YMCA**
 - 川島 知華
 - 西園 儀菜
 - 水町 晴美
 - 成 穂乃花
 - 酒見 奈央
 - 上田 雪乃
 - 沖永 芽衣
 - 福岡YMCA
 - 阪田 佑紀
 - 三村 菜仁
 - 加納 知佳
 - 杉山 藤奈美
 - 谷山 裕美
 - 玉木 菜穂
 - 藤堂 有加
 - 中井 美佑
 - 根本 沙那
 - 佐藤 幸子
 - 前田 彩希
 - 味増 理沙
 - 三谷 しおり
 - 村上 裕紀
 - 高木 理沙
 - 辻本 汐里
 - 舞波 幸子
 - 平松 梨花
 - 横本 千紘
 - 丸山 莉果
 - 広島YMCA
 - 渡辺 智弘
 - 渡辺 ケビン
 - 伊藤 乃将
 - 合力 誠
 - 半田 瑛莉
 - 山本 果林
 - 本多 麻季
 - アイスダアジダリ
 - 山口 彰吾
 - 山崎 拓也
 - 大谷 亮
 - 大谷 亮
 - 重村 美月
 - 近藤 桃乃
 - 球 ショウアンジュム
 - 山下 農菜
 - 吉田 のぞみ
 - 山田 莉々
 - 西園 儀希
 - 齊藤 肇
 - 以上、573人

INFORMATION

学生YMCA2017年度新入寮生募集中!

学生YMCA寮は、125年以上の歴史を持ち、多くの社会的リーダーを輩出してきました。自治を基本とした共同生活を通して、自主性と協調性を培い、イエス・キリストの精神に触れ、互いに学び、仕え合うことを目指しています。

- ▶ いずれの寮も大学から比較的近くに立地。
- ▶ 全室個室! 寮費は月1~5万円程度とリーズナブル。
- ▶ OBOGIによるサポート、寮母・寮父による食事提供など、アットホームで安心して生活できる空間。
- ▶ YMCAならではの、全国各地の学生との交流や、国際的な視野を広げる海外プログラムにも参加可能。



都道府県	大学YMCA名	入寮条件	連絡先
北海道	北海道大学YMCA汝羊寮	男子・北大生のみ	011-736-9918
宮城県	東北大学YMCA漢水寮	男女・他大学生応相談	022-249-3564
	東京大学YMCA	男女・東大生のみ	03-3811-1778
東京都	早稲田大学YMCA信愛学舎	男女・他大学生応相談	03-3203-2858
	一橋大学YMCA	男子・一橋大生のみ	042-572-0011
京都府	京都大学YMCA地塩寮	男女・他大学生応相談	075-751-9744
	京都府立医科大学YMCA橋井寮	男女・府立医科大生のみ	075-771-6913
福岡県	九州大学YMCA一麦寮	男女・九大生のみ	092-661-6690
熊本県	熊本大学YMCA花霞寮	男子・熊大生のみ	096-343-1432
長崎県	長崎大学YMCA浦山寮	男子・長大生のみ	095-846-9241

*入寮条件は寮によって異なります。直接各寮または日本YMCA同盟事務局にお問い合わせください。



YMCA東山荘 次の100年に向けて⑧(最終回)

「これからも、出会い、つながる場所として」

学生YMCAの夏季学校の開催場所として開設されてから100年目の2015年、私たちは「廣岡浅子展」を行い、青年と女性の人格形成・人権擁護のために東山荘をつくった意味を振り返りました。101年目の昨年は新本館が完成。箱根山麓の森と100年間つくり上げてきた里山、建物群の調和した美しさが評価され、11月には静岡県景観賞優秀賞を頂きました。



ここで、次の100年の歴史が始まっている。

そして2017年、YMCA東山荘は102年目を迎えました。地元市民の方々と共に歩んできた100年の歴史は、今、豊かな実を結んでいます。ご利用くださった皆さまは、ここで神に、自然に、そして一生の友に出会います。自己の内面や社会の課題について共に考え、夢を語り合います。そして理想を実現するためにそれぞれの地へと帰っていき、地域のYMCA・ワイズメンズクラブなどを通して、誰もが受け入れられ自分らしく生きる、平和な社会をつくるために活動する……そのような働き人を生み出していくことは、東山荘の重要な目的です。

1億円を目指して現在も継続中の「東山荘100年募金」は、次の100年もユースや子どもたち、家族が出会い、つながる場であり続けるために、新本館の建設に続く、荘内環境整備などのために大切に用いられています。

「明日の青年を育成したい」「これからもネイチャーキャンプができますように」「学生YMCA運動が活発に存続していくために」「孫も来ることができるように」「社会貢献がしたいから」「震災の時、YMCAの皆さんにお世話になったので」……。

これは、募金を寄せてくださった皆さまからいただいた言葉の数々です。お一人お一人に感謝の手紙を書きながら、多くの皆さまが東山荘を愛し、希望を抱いておられることを実感しています。新約聖書ヨハネの手紙一4章12節に「いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくれ、神の愛がわたしたちの内であらうとされているのです」とあります。これからの100年も、東山荘は、地域の皆さま、国内外のYMCAやワイズメンズクラブ、学校、教会などの皆さまが出会い、愛でつながる場でありたいと願っています。

YMCA東山荘所長 堀口 廣司

〇今回をもちまして、「YMCA東山荘 次の100年に向けて」の連載は終了となります。今後の取り組み、および「100年募金へのご協力」などにつきましては、引き続き「YMCA東山荘」のサイトよりご覧ください。http://www.ymcajapan.org/tozanso/

<お詫言と訂正> 2017年1-2月合併号の特集「子どもの権利とYMCA」に掲載いたしました「育つ権利-大阪YMCA「表コミ」の場合-」の執筆者のお名前を、大阪YMCAスタッフ「瀧田千文」と表記しておりましたが、正しくは「瀧田千文」となります。深くお詫言して訂正させていただきます。